

## **労基法違反、36協定違反撲滅！**

### **12地本統一闘争による3ヶ月締結の意義を全組合員が確認しよう！**

J R 東労組は、2件の36協定違反を発生させた責任は全て会社にあることを明確にし「破棄条項付き1年締結」を、12地本の統一闘争として創り出し、会社に強く迫ってきた。

しかし会社は、36協定違反の事実を認めながらも、抜本的な解決策を一向に示すことなく、勤務指定日を迎えることとなった。結果、職場では時季変更権の行使を「留保」した勤務指定が出され、1月26日に出された「社員の皆さんへ」では、36協定を締結できない責任はJ R 東労組にあるかのように意図的に描き出し、同時に職場に思いを馳せない言葉は、日々降雪とのたたかいに奮闘する組合員の苦労に応えることなく職場に混乱を持ち込んだ。このような会社の傲慢な姿勢を許すわけにはいかない。

36交渉の過程で発覚した長野地本企画職場の実態は、まさに「電通事件」と軌を一にするものであり、企業犯罪と同等の事態といえる。怒りに震えた長野地本の仲間の声は会社をも動かし、「会社の謝罪」「調査」「賃金の支払い」をかちとった。まさに長野地本を最先頭にした全12地本のたたかいは、会社経営の正常化をかちとる「正義のたたかい」であった。

一方で「破棄条項付き1年締結」は、全ての地本で対立した。18春闘に集中した体制をつくりだすために「破棄条項付き1年締結」の実現を目指した。しかし全く反省の姿勢を見せず労基法違反や36協定違反をくり返すJ R 東日本に対し、改めて「3ヶ月締結」を要求するに至った。12地本の糸乱れぬ攻めのたたかいは、全組合員の不正や虚偽を許さぬ意志を貫いたものであり、組織の団結力を鍛え上げた。

さあ、いよいよ格差ベア根絶のためのたたかいがスタートする。36協定締結のたたかいで高まった組合員一人ひとりの労働者の感性と、組織の力で「いつでもたたかえる体制」を強化し、あらゆる戦術を駆使し格差ベア根絶のためのたたかいに立ちあがろうではないか！

そして中央闘争委員会全組合員の先頭に立ちたたかいをけん引する決意である。

全組合員の皆さん！

一步も引かず36協定3ヶ月締結を実現した意義を確認し、さらに統一闘争を深化させ、格差ベア永久根絶とJ R 総連春闘勝利のためにたたかい抜こうではないか！

2018年1月29日  
東日本旅客鉄道労働組合